

# 特別号発行にあたって

愛知大学経営学会会長 玉置光司

愛知大学経営学会では2016年5月26日に評議員会を開催し、そのなかで第174号と第175号を合併号として「新名古屋校舎完成記念」(特別号)を発行することを決議した。本号はこの決議に基づいて発行するものである。上記評議員会を開催した時点では第174号と第175号を合併する案も特別号を発行する案も小生の念頭にはなかったが、議事のなかで若手教員から特別号を発行する提案があり、これを受けて上記の決議に至った。

学会長である小生が提案を受けて気付くというのは反省すべき点ではあるが、本号を発行する2017年2月は本学会が所在する愛知大学名古屋校舎にとって記念すべき時期にあたる。本学会が1992年6月に愛知大学法経学会から分離独立したときから所在していた旧名古屋校舎(現みよし市、旧西加茂郡三好町)から新名古屋校舎(名古屋市中村区)に移転したのは2012年4月のことであり、本学会は本館(研究棟)を欠いて未完のまま稼働した新名古屋校舎とともに、名古屋の地にて4年余りの時を刻んできた。しかし、2016年末にはその新名古屋校舎の本館が完成し、2017年3月には第二期工事が竣工予定であり、新名古屋校舎が完成する。

この完成を期に、学会と学会員の研究活動を可能にしている中心的な環境に対して謝意を表明することが本号の趣旨である。実のところ、みよし市からの移転の際にもこのような企画の実施が学会内でささやかれてはいたが、多大な移転作業に忙殺され、実施することはできなかった。今回こうして無事に特別号を発行することができ安堵している。

さて、経営学会では初めての特別号となる本号は、論説4篇、研究ノー

ト1篇、調査報告1篇の合計6篇を収録している。特別号を発行するにあたって十分な予算を確保する観点から第174号と第175号を合併することとなり、2016年度には本誌が年に1回の発行となってしまったことは残念ではあるが、これによって新名古屋校舎を研究拠点とする本学会員の研究成果を発信したい。

新校舎完成を祝したこの機会に、経営学ならびに関連諸科学の学術的研究とその発表の機会が与えられていることに対して改めて感謝するとともに、学会としてもより一層の研究活動に努めていく所存である。

2017年1月14日

完成したばかりの本館の研究室にて